議事録

令和７年度第１回みのかも定住自立圏第４次共生ビジョン懇談会	
日　時	令和７年10月10日（金）10時00分～12時06分
場　所	リバーポートパーク美濃加茂大ホール
出席者	別紙のとおり
資　料	1.次第 2. みのかも定住自立圏第４次共生ビジョン懇談会（今後の流れ） 3.みのかも定住自立圏第４次共生ビジョン（案） 4.別紙_出席者名簿
今後の流れ	・「第２部　考える」については、美濃加茂市から書面での意見提出を依頼 ・令和８年２月16日（月）14時～16時でみのかも定住自立圏第４次共生ビジョン懇談会、首長懇談会を開催予定 ・今後の詳細な流れは懇談会終了後、美濃加茂市から連絡

議事内容

１．開会　10:00

美濃加茂市長

ビジョン懇談会委員の皆様方には、心から御礼申し上げます。

令和８年度からみのかも定住自立圏第４次共生ビジョンが開始します。私が初めて市長になった時にはすでに第２次共生ビジョンが始まっていました。

今まで、加茂地域はもともと合併を前提にまちづくりを進めていたということと、加茂郡というものに美濃加茂市も当然属していることから、一つの生活圏を歴史の中で育んできました。これから未来に向けてどうするかということを考えてきて、今この第４次共生ビジョンまで至っているということが１つ確認すべき現在地であると考えております。

そういった中で、我々首長は本当にありがたいことにラフな関係で非常に仲良くさせていただいております。私がずっと最年少だったのですが、今は川辺の町長が最年少であり、世代を超えてお互いのことを尊重して取り組んできました。しかし、リーダーだけではなく、どちらかというと市民、町民、村民の皆様の意識も変えていかなければいけないということもあり、これについては第２次、第３次で進めてきたことが多かったのかなと振り返って感じております。

本日は各市町村を代表した職員の皆様にお集まりいただいております。これからやらなければいけないこととして、おそらく住民の皆様にこの定住自立圏という名前は浸透していないかもしれませんが、生活圏としてともに助け合っていかなければいけないという自覚は当然あると思います。その中で、次は具体的にどういったことをやっていくのかということを期待されているタイミングに来ていると思います。我々美濃加茂市としても、中心市として引き受けるべき責任や、引き受けるべき活動をしっかりと引き受けていきたいということを考えておりますので、どんどん忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。当然皆様方にもいろいろと汗を流していただかなければいけないとい

うことがあると思いますが、これから先、50 年、100 年後、あの時に描いたビジョンがよかったねと言ってもらえように大胆なアイデアと大胆な取組を期待しているからこそ、本日、我々は会議には入らず少し遠くに座っておりますので、ぜひ皆様方の忌憚のないご意見を、そしてそれからのアクションを期待させていただきたいと思います。

それに伴いまして、ビジョン懇談会委員の皆様方も我々にとっては圧倒的に先進的な取組をされてみえる方々であると思っておりますので、ぜひ大胆な発想と大胆なご提言を我々に賜りたいと思っておりますので重ねてお願いいたします。

美濃加茂市としても、いろいろと知恵を絞ってやっておりますので、ぜひいい仲間としてこれからも共生の一助とさせていただければと思います。本日は、富士通Ｊａｐａｎ（株）より美濃加茂市に来ていただいている DX 推進コーディネーターも出席しております。デジタル化を中心とした改革の力を発揮していただいておりますので、そうした交流も含めてよろしくお願いいたします。

話し出すといつまでも話してしまいそうですが、ここから先は皆様方に委ねていきたいと思いますし、皆様方の決定を我々首長は尊重していきたいと思いますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

2. 委嘱書交付　10:06

みのかも定住自立圏推進室長

酒向委員、宮原委員、岡田委員、古里委員 委嘱書交付

（志知委員は急なご都合により欠席のため後日交付）

3. ビジョン懇談会　第 1 部 - 知る -　10:15

美濃加茂市企画課

第 1 部の進行を担当させていただきます。

まず、第 1 部は - 知る - ということで、お互いにお互いのことを、まずは知っていただいたうえで第 4 次共生ビジョンという将来像、3 つの視点を達成するためにどうしたらいいかというところを深く議論を進めていく時間にしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

名簿順で恐縮ですが、酒向委員からよろしいでしょうか。

【酒向委員】

酒向委員：株式会社やまのはたへの酒向といいます。誰もが山村と関われる社会というのを会社のミッションにして、いろいろな事業を展開しております。今だとちょうど稲刈りの時期なんですが、そういった農業や、冬場は山の整備や山仕事、そのフィールドを使った単発の年間を通した自然学校狩猟のような活動、狩猟等をやっております。その中で大事だなと思っているのが担い手の育成ということで、今だと、例えば自然学校もですが、田んぼや畑の学校のようなものを運営させていただいています。もともと美濃加茂市役所の職員をしておりまして、退職して 3 年目になります。そこから今の事業をやっているというのが簡単な経歴です。

岡田委員：自然学校というのは、民間事業としてやっているのですか。
酒向委員：そうですね。民間事業ですが、補助金などは活用している事業もあります。民間事業者や行政からの委託事業もいくつかやっています。ちょうど今、リバーポートパークの森の中で、新たなアクティビティづくりのような形で教育をメインにした生きもの講座をやらせてもらっている最中です。自主事業として運営しているものと、企業の社員研修や、幼稚園や学校の依頼による自然体験や田んぼの研修のような委託事業と様々です。
美濃加茂市：企業の研修について、企業側は何を目的に農業と関わる研修を実施するのか教えていただきたいです。
酒向委員：今やっているのは新入社員研修みたいな形なんですが、その中で何か自然と関わるような体験をやってほしいというオーダーでした。自然を使って薪でご飯を炊き、外でカレーを作って食べるというような形で、タスクをこなすというよりはコミュニケーションを取らないと完成しない過程があります。その中で、新入社員でお互いを知らない、人事も実際その人がどういう人をなかなか見る機会が少ないため、自然な関わりの中でどういった特性があるのかを見ながら、社員同士がコミュニケーションをとることを目的にしています。
　ただ、それ以外のものもあるので、例えば田植えをして稲刈りをするような部分は、ある意味では福利厚生的な形で休日にご家族で参加してもらえるような建付けになっています。

宮原委員：もともと市役所にいらっしゃって、なぜ起業まで至ったのかを純粋にお聞きしたいです。
酒向委員：もともと、民間で 3 年くらい働いており、東京周辺にいてそこから戻ってきた形です。都会で過ごした時に田舎の大切さみたいなものをなんとなく感じて、それが何かはその時は分からなかったのですが、田舎というか実家の方に帰りたいという気持ちになって戻ってきました。
　その年にちょうど東日本大震災があり、それで災害ボランティアに行くようになったんですが、その時に食料だとかエネルギーだとか地域コミュニティの大切さみたいなところを感じて、そこから市役所の職員をやりながら出勤前に田んぼに行って作業してという生活を 13 年くらい続けました。しかし、体がもたなくなってきて、最終的にはワークライフバランスとかフレキシブルな働き方をご提案いただいていたんですが、自分自身で経営したいという気持ちはずっと持っていたので、今は現場で一住民として地域をつくっていくというところに身を置いているという経緯です。

【宮原委員】
宮原委員：今一番関わっているのは、Co-Innovation University というもので古里さんも監事として関わっていただいております。これが 8 月末に文科省の認可を受けまして、4 月に大学生を迎え入れて思いを形にできるよう今頑張っているところです。
　特徴としては、私たちの中では地方と都市について、どちらかが支えるだけでなく、支えられるだけでなく、しっかりと地域という単位が持続可能になるように、もしくはその地域のことを知りながら現場に即していろいろな課題解決に取り組んでいくような、そういうことをビジョンとして掲げています。

なので、コンセプトは地域から世界につながる未来を共創するというものになっています。それを実現するための特徴として、理論と対話と実践を往還するというものになっています。

大学は通常、4 年間授業を聞いてプラスαの部分で実践をする形が多いと思うんですが、この大学では、1 年目は飛騨に本拠地を構えて、2 年目になったら全国 15 拠点の連携しているサテライトキャンパスに散らばっていって、オンラインで学びながらその地域の企業で本気のインターンシップをしながら実践をして、地域の現場を知り、課題を見つけ、経営者と一緒に挑戦し、ということを対話をとおして往還しながら学びを深めていくという大学になっています。

もともとの自分の背景なんですが、最初の 10 年間はどちらかというと行政系のコンサル会社の地域問題研究所におりまして、その時にいろいろな分野の課題に関わらせていただいていたので、いろいろな分野から物事を見るという視点は身につけられたかなと思っています。

一方で、地域に行くと一人の人が、仕事して、地域ごとして、家事して、みたいなところで大変だなというのを見ながら、もう少しいろいろな形で自分もまちづくりに関われるといいなというところと、ちょうどその頃に地方創生の話があり、若者に戻ってきてほしいとか、若者を出したくないとか、早く結婚してほしいとか、子どもを産んでほしいとか、だれの人生なんだろう、みたいな。もう少し若者に寄っていった方がいいんじゃないかと思って、名城大学の社会連携センターへ行きました。その時に美濃加茂市にお世話になって、都市情報学部の学生を何十人か市役所の職員の皆様に受け入れていただいて、そこで学生が現場を知りながら実践をやってみるというようなところに出会いました。

大学で感じたのは、やはり目まぐるしく変わる社会と、施策と、それに翻弄される学生と、なぜか実社会が強くなりすぎて肩身の狭い教員研究者という不思議な構図と、大学と何かしたいというアイデアを民間の方からたくさんいただくんですが、企業の理屈が先に立つ何とも言えないモヤモヤみたいなものがありました。

ここがもう少しちゃんとそれぞれの理屈やいろんな思いを知りながら、それぞれの役割に軸足を置いたつなぎ方ができないのかなというのが個人的な課題感でありました。

それで行きついたのがグラデーション豊かな社会かなと思っています。みんなが寄りすぎると一色になってしまって、多分それぞれの色がちゃんと立っていることが大事だなと思っています。これからも共創の話が出てくるかなと思うんですが、行政にしかできないこと、民間にしかできないことを意識しながら、相手のことを理解しながら、というグラデーション豊かなアイデアや取組が自分としてもできたらいいなと思っているところです。

酒向委員：地域課題を学生が現場で感じながら事業をしていくようなイメージなのかなと思うのですが、その先としてどのようなキャリアが想定されいるのでしょうか。

宮原委員：大事なのは納得感のあるキャリアだと思っています。チャレンジする人が起業家だけでいいのかというと多分そんなことはなくて、行政の中にもおそらく必要ですし、民間企業の中にも、大学の中にも必要だと思っています。

特に今、大学の立ち上げに関わって思うのは、構想を描く人だけでいいかというとそういうことでもなくて、やはり総務的な人だったり、事務的な人もチャレンジャーである必要があると感じていま

す。ルールや制度も全てゼロからつくるもので、そのマインドは多分同じだと思います。起業はそれはそれで応援しつつ、地域の行政だとか企業とかいろんなところに出会っていただいて、学生がこれだみたいなところに出会えるといいのかなと思っています。
東白川村：大学の入学者は決まっていますか。
宮原委員：8 月末の認可が下りてからでないと募集ができなくて、今 1 回目の入試が終わり、間もなく 2 回目ということで奔走しております。

【岡田委員】
岡田委員：やっていることは、業種でいうとデベロッパーとありまして、古民家をイノベーションしてホテルをつくったり、オフィスをつくったり、アートギャラリーをつくったりしているんですが、とりあえず古民家が大好きと思っていただけたら間違いないと思います。
　圏域がもっている文化とか伝統とか、風土が素晴らしいものであり、一旦、古民家というキーワードは象徴としてアイコン化しているんですが、やりたいことは、エリアを次世代に残していきたいなと思っています。今日いらっしゃっている市町村のようなところが日本のアイデンティティだと思ってまして、ここが残ることが僕は正しいというより豊かかなと信じてやっております。
　そういう点をいっぱい残していきたいなと民間ながら思っている会社です。
　行政用語でいう関係人口というものが、今までの人口減少社会前ではなかった発想かなと思っています。支えるのが域外でもいいんじゃないかといった地域になっていて、僕らは担い手と呼んでいるんですが、担い手を域外から呼んできて、それで地域が残るような活力を与えることを民間ながらやるということをビジョンに掲げています。世界中の担い手が地域を支えてもいいんじゃないかということで地域に入ってやっています。今は観光業ですけれども、そのうち観光業を脱したくて、リピートする観光所とか、半定住別荘とか、長い期間来てもらうようなところをどうにか集める施策を作れないかと思っております。
　ただ、今やっているのはホテルが多いです。ホテルが一番地域の魅力を発信するにはふさわしいかなと思っていますし、経済効率の中ではかなり確度が高いです。だからこの辺りだと岐阜県美濃市や愛知県の犬山市、名古屋市の有松、豊田市の足助とかで今、入らせていただいています。基本的に行政と必ず連携して、かつ地域のやる気のある社長さんと 3 者でスタートしています。
　犬山市だけ長くやっているので、オフィスをつくったり、保育園留学というイベントで 2 週間東京のママさんと子どもをお預かりしてリフレッシュしてもらうというようなことをやっている途中です。
古里委員：いろんな地域で運営されていて、いろいろな地域の資源を再定義して、提示して宿とかをやられていると思うんですが、ハードな面だけでなくてソフト面についてどういうものが大事だとお考えになっているのか教えていただきたいです。
岡田委員：私は皆様のように俯瞰的な立場じゃないので、各論しか申し上げられないんですが、各論の中でみえてきたのは、私はもともとホテル業だったので、地域の伝統産業とか自然のようなものでやると 1 回目はそれで（お客様が）来ます。

ただ、これは別に研究しているわけではなくて再現可能性があるわけではないのですが、2回目来る理由の大半は人のつながりであることが多いです。

ノウハウが全く通じないので、1回目はあの手この手で職人と鐘撞体験をしてリピートしてもらっていいんだろうなと聞いたら、職人のキャラがよくて弟子入りしたりだとか、保育園留学も、保育園に2週間入ると友達になるので、その友達が手紙を書くんです。最近そこが見えてきて、逆に言うと、地域としてはやりようがあると思っています。神山高専についても、自然が豊かであるというところで結局、人が人を呼んだのかなと思います。実はここにヒントがあるのかなと思ったりします。

そういう意味で言うと、教育はすごいなと感じていて、学生がたくさん歩いていることをほめてもらえる。

【古里委員】

古里委員：生まれは岐阜県の飛騨古川という、まさに大学が開学する場所になっていまして、私は地元の人間の立場からこのプロジェクトの準備のところから関わらせていただいて今、監査役になっています。まさに、宮原さんとこれまでずっとやってきた感じになっています。

大学を卒業した後は、東京にいまして、スクエアエニックスというゲームの会社に勤めた後、会計士の監査をする法人に入ってですね、会計士として上場企業の監査とか、IPOという上場するプロジェクトを支えてやってきました。

ひょんなことから、地元の金融機関で声がかかり、15年くらい前に飛騨高山の飛騨信用組合にUターンして、そこから飛騨での生活が始まったという形です。十数年、金融機関の中で地域金融をやっていまして、その時に先ほどご紹介あったようなデジタル地域通貨のさるぼぼコインという、今でもペイペイとかあると思うんですけど、そういうものが出る1年半前に地域限定のデジタルマネーをつくって、QRコードで決済ができるというものを企画して運用したりとか、ファンドをつくって、金融機関の融資だけじゃなく、もう少し成長を支えられるようなお金を出せる仕組みをやったりということで、いろいろな新規事業に携わっていました。

4年半前くらいに独立をして、今は各自治体のプロジェクトの中にアドバイザーという形ではなくがっつり中に入ってプロジェクトを成就させるというところをやったり、あとはずっと新規事業をやってきたので、上場企業さんと新規事業の開発支援みたいなところに同じように入って仕事をしております。

最近だと、今まさに岡田さんがお話しされていたような関係人口みたいなところを逆に都心部でできないかというところで、ツクリテというコミュニティサービスをつくって世田谷で実証実験をしています。

行政の方から、そのプラットフォームを使って都心部であってもやはり人口減少とか高齢化で担い手がどんどん減っていくものですから、しっかりと周りの地域のファンドをその活動にうまく集めて、都心部であっても郊外は地方と同じ構図があるので、そこで都市型関係人口みたいなものをつくって、みんなで地域を支えていきましょうというのをやっています。続々と他の区にも興味をもっていただいて、結構東京の都心部の中の区は使ってもらえるようになるのかなと思っていまして、そう

いう関係人口というかファンドづくりといったところの取組をやることが今は多いのですが、今回のプロジェクトも非常にいろんな地域を巻き込みながら本当に面で大きな課題に立ち向かっていくというすごく本質的な会だと思っていまして、非常に参加させていただくのを楽しみにしていました。
岡田委員：関係人口は僕のメインテーマで、実は JR 東海さんのコノミチというのを美濃市で実証実験をやらせていただいた。行政の交付金でいくと持続しないんじゃないかと思ってツクリテさんは前から気になっていました。お金がすべてじゃないですけれども、続く意味があるのかなと思っていますので、その辺の実態っていうのをお聞きしたいです。
古里委員：ツクリテは本来、住民の方向けに提供しようとしていたサービスだったんですが、いろいろ考えるうえでやろうと思っているコンセプトの最初のところが自治体がもっている課題にマッチするのではないかと思っています。
　実は参考にしたモデルがありまして、私は飛騨出身で、さるぼぼコインを作った時に、飛騨市の自治体でヒダスケという、要は地方がやる関係人口のファンづくりのためのサービスなんですけれども、地域のいろんなイベントとかあとは、地元の人にとって大変な農作業とか地域のイベントの裏側の仕事みたいなものを外の方向けにその中に入って手伝う側に回れる方を募集するプラットフォームを作るタイミングだったんです。
　飛騨市の場合は、さるぼぼコインを絡めながら、それをお礼のお返しにするというサービスをしたんですが、そういったところにも関わっていたものですから、まさに東京でやるときにもそういうモデルをつくって、自治体の困っている方を担い手とか地域コミュニティが、ｓ町内会とかいろんな既存のコミュニティをかなり廃れています。東京の方では、どうやって人を集めるかとか、担い手を増やすかというのにすごく悩んで別の予算を結構たくさんつけていらっしゃるんですね。
　そのサービスを使うことで、そこが解消できるのであればその自治体のもっている予算の分をうまくそっちにできると思うので、期間限定にはなるかもしれないんですが、今はそういうふうに自治体さんが使うコミュニティ維持のためのツールみたいな建付けでお金をいただくような感じになっています。

【志知委員】
美濃加茂市（DX 推進コーディネーター）：本日、志知が来れなくて申し訳ございません。
　志知は今パブリックエデュケーション事業本部という事業本部にいまして、富士通 Japan は基本的には富士通の子会社として日本を担当するという会社になっています。
　元々インテックという会社で自治体のサービスを提供していたんですが、2012 年 4 月から 2015 年 3 月まで、富山市の地方創生新規事業企画というところに出向という形でおりまして、そこでもいろいろなプロジェクトを実施していたという関係になります。
2018 年に富士通に転職しまして、2021 年から 2024 年まで長野県の伊那市に出向をしておりました。そこでも新規事業だとか、運用だとか、地域ブラインド経営戦略策定支援という形で私と一緒の立場で富士通から派遣されたものです。
　今は伊那市とのブランドをつくるっていうところのビジネスをしています。

町村の職員については昨年度、皆さんで伊那市に行かせていただいて、（本日ご出席の）委員のみなさん以外は一回お会いしている方もいるかなと思っております。
富山県では、まちづくり富山というところに富山市から出向していまして、昨年度までいた伊那市ではシェアリングエコノミーサービスを立ち上げたりとかまちづくりにデジタルをどう活用していくかっていう行政目線での支援を実施していました。例えば伊那市でやっていたことは、医療系のMAASを先進的に実施をされていまして、それの立ち上げをしていました。医療、市役所、公民館など様々なMAASを推進しており、伊那市は山間部のため行政に来るのではなく、行政が向かっていくことをできないかということで実施している。質問についてはまた2月に集まる機会があるということなのでその際によろしくお願いします。

【美濃加茂市の紹介】
（美濃加茂市の説明）
特になし

【坂祝町の紹介】
（坂祝町の説明）
岡田委員：成人の方はみんな（成人式のヘリコプター遊覧に）乗れるのですか。
坂祝町：乗れます。去年は、（ヘリコプター遊覧は）ふるさと納税の返礼品にもなっていまして、60万円の寄付でしたが、申し込みはありませんでした。

【富加町の紹介】
（富加町の説明）
特になし

【川辺町の紹介】
（川辺町の説明）
古里委員：どうやってKAWABE MOUNTAIN FES.FUMOTOを企画しているんですか。
川辺町：以前は産業文化祭といって町の産業や文化のようなお祭りをしていたが、最近は若者をターゲットとしています。イベント会社にも入ってもらい、若者に川辺町に来てもらえるようなイベントとしています。

【七宗町の紹介】
（七宗町の説明）
特になし

【八百津町の紹介】

（八百津町の説明）
特になし

【白川町の紹介】
（白川町の説明）
特になし

【東白川村】
（東白川村の説明）
特になし

４．閉会　12：03

経営企画部長：私は生まれと育ちは坂祝町で、仕事は美濃加茂市で、今住んでいるのは川辺町で、この圏域でずっとお世話になっています。本日はご熱心に議論いただきましてありがとうございました。本日委嘱させていただきました委員のみなさまにも引き続きお世話になりますのでよろしくお願いします。今回の第４次共生ビジョンは作って終わりではなく毎年毎年改定して良いものにしていきたいと思っておりますので、そういった点においても委員のみなさまにもおかれましても引き続きご支援いただきたいと思いますのでよろしくお願いします。また、町村の職員の方におかれましても、これからみんなで一緒にやっていくわけですが、当面 12 月の議会で協定の議決を受けていただくことが今後の目標になっていまして、来年の４月からですね、無事にスタートが切れるように引き続きよろしくお願いします。

以上

令和７年度第1回
みのかも定住自立圏第4次共生ビジョン懇談会
出席者名簿

日 時：令和７年10月10日（金）
　　10時00分～１２時00分
場 所：リバーポートパーク美濃加茂　大ホール

	所　属	氏　名（敬称略）※順不同
1	ビジョン懇談会委員	さこう　かずあき 酒向　一旭
2	ビジョン懇談会委員	みやはら　ちさ 宮原　知沙
3	ビジョン懇談会委員	おかだ　たけし 岡田　岳史
4	ビジョン懇談会委員	ふるさと　けいし 古里　圭史
5	坂祝町企画課	みのかも定住自立圏担当
6	富加町企画課	みのかも定住自立圏担当
7	川辺町企画課	みのかも定住自立圏担当
8	七宗町ふるさと振興課	みのかも定住自立圏担当
9	八百津町総務課	みのかも定住自立圏担当
10	白川町企画財政課	みのかも定住自立圏担当
11	東白川村総務課	みのかも定住自立圏担当
12	美濃加茂市企画課	みのかも定住自立圏担当
13	美濃加茂市企画課	みのかも定住自立圏担当
14	美濃加茂市企画課	DX推進コーディネーター

※ビジョン懇談会委員　志知 貴文様はご都合により欠席です。